

令和5年11月2日

保護者等様

京都府立豊学校
校長 竹本 明史

冬季に流行する感染症の予防について

平素は、本校の教育に御理解と御協力をいただき、誠にありがとうございます。

さて、例年12月から流行するインフルエンザが今年は早くから増加傾向にあり、新型コロナウイルス感染症とあわせての対策が重要となります。また、冬季に多発する感染性胃腸炎にも注意が必要です。

このため学校では日々の健康観察を行い、関係機関と連携し、感染予防と感染拡大の防止に努めているところです。

つきましては、御家庭におかれましても毎朝の健康観察に御協力いただき、下記のとおり感染予防等に御留意いただくようお願いいたします。

記

1 冬季の感染症予防の基本

- (1) 外出後等の手洗い、うがいを励行する。
- (2) 加湿器等を利用し、室内の湿度を50～60%に保つ。
- (3) 身体の抵抗力を高めるため、十分な睡眠と適度な運動、バランスの取れた食事を心掛ける。
- (4) 状況に応じて、人混み等では適切にマスクを着用する。
- (5) 室内ではこまめに換気を行う。
- (6) 咳エチケット（咳・くしゃみをする際、他者に飛沫を飛ばさないよう、ティッシュ・ハンカチや袖等を使って、口や鼻をおおう。症状のある時はマスクを着用する。）に努める。

2 冬季の感染症流行期におけるお子様の健康管理について

- (1) 登校前に発熱、咽頭痛、咳、鼻水、吐き気、おう吐、下痢等の普段と異なる症状がある場合は、学校へ連絡のうえ御家庭で療養してください。
- (2) 38℃以上の発熱がある場合は、状況に応じてかかりつけ医等に受診するようお願いします。

3 冬季に流行する感染症について

インフルエンザ

- 症状：悪寒、頭痛、高熱（39-40℃）等の症状が急激に現れる。
頭痛とともに咳、鼻水で始まる場合もある。
その他、倦怠感、腰痛、筋肉痛、咽頭痛、鼻づまり、おう吐、下痢、腹痛等。
- 潜伏期間：1～4日（平均2日）。
- 感染者の咳、鼻水からの飛沫感染によるが、接触感染もある。
- 抗ウイルス薬によって早期に解熱した場合も感染力は残るため、発症後5日を経過するまでは家庭での療養が大切である。

新型コロナウイルス感染症

- 症状：発熱、咽頭痛、咳等。
- 潜伏期間：1～14日（多くは5～6日）。オミクロン株では2～3日。
- 飛沫感染、閉鎖空間でのエアロゾル感染、接触感染。
- エアロゾル感染対策として、換気の確保が有効である。
- 症状が軽快した後もウイルスが排出されるため、発症日から10日間のマスク着用が推奨される。
- 症状が改善せず続く場合（咳、倦怠感等のいわゆる後遺症）には、かかりつけ医に相談する。

